様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２５０５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2015
課題番号：２６７７０１５２

研究課題名（和文）中国湘語邵陽県方言の記述的研究

研究課題名（英文）A Descriptive Study of Shaoyang County Xiang Dialects in China

研究代表者
王　振宇（WANG, ZHENYU）

中央学院大学・商学部・講師

研究者番号：７０５３２１９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は中国の湘語に属する邵陽県方言を調査、記述するものである。この方言は有声音子音など、他の漢語方言では失われた古い特徴を数多く保持している。本研究はまず、邵陽県に赴き、調査票を用いて各地点の音声・語彙・文法を音声資料として記録した。次に、邵陽県方言のデータベースを構築した。最後に、地点間のバリエーションについて分析を実施し、論文執筆（４本）や学会発表（５回）を行った。これにより、湘語研究の空白を埋め、漢語方言の研究に多くの方言データを提供することができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to survey and describe the dialects of Shaoyang County, which belong to the Chinese Xiang dialects. These dialects retain many ancient characteristics already lost by other Chinese dialects including the voiced consonants. First, I went to Shaoyang County and recorded the phonological system, vocabulary and grammar of each investigation spot using a questionnaire. Next, I built a database of the dialects. Finally, based on my analysis on the variation between spots, I have published four articles and made five presentations at conferences. The research filled in many blanks in the current knowledge of Xiang dialects and resulted in the accumulation of a significant dialect data on the study of Chinese dialects.

研究分野：言語学

キーワード：漢語方言　湘語　邵陽県方言

１．研究開始当初の背景

湘語は主に中国湖南省境内に使われる方言であり、使用人口がおよそ 3,438 万人である。諸漢語方言のうち、湘語の研究は相対的に遅れており、多くの課題が残されている。これまでの調査、研究が殆ど城関（県の政治中心）の方言を記述対象とする一方、辺境地域に位置する県、郷の方言に関する考察は十分に行われていない、という点が挙げられる。湘語は官話方言の影響を受けて大きく変容した「新湘語」と、古い特徴を多く保持している「老湘語」の 2 つに分けられている。前者は長沙市などの都市部に使用されるのに対して、後者は邵陽県などの辺境地域に使われる。「新湘語」では、中古全濁声母が無気無声音子音として現れている。それに対して、「老湘語」では、有声音子音の残存や狭母音前における舌尖音と舌面音の対立（「尖団音の区分」）など、「新湘語」では失われた中古漢音の特徴が数多く残されている。ところが、近年、北京語などの影響を受け、一部の「老湘語」にも大きな変容が起こっている。たとえば、多くの若年層話者では舌尖音が拗音の前で口蓋音化し、「尖音と団音の区分」が持たれなくなっている。邵陽県方言は 976,750 人の話者を擁する言語であるが（『邵陽県統計年鑑（2006）』）、当該方言に関する文献資料がこれまで非常に少ない。概説的なものとして『邵陽県志（1993）』（邵陽県志編纂委員会編、社会科学文献出版社）があるが、いくつかの特徴を挙げるに留まり、体系的な記述研究はなされていない。本研究に先立ち、研究代表者は邵陽県の蔡橋郷に赴き、方言のフィールド調査を行い、約 3 千の単字音と約 2 千の基礎語彙、約 3 百の例文を収集し、データ集を作成している。そのデータに基づき、『湘語蔡橋方言の研究』（好文出版）を出版した。

２．研究の目的

本研究はこれまでの研究の延長線上にあるものであり、邵陽県方言の音韻、語彙、文法を調査、記述することを目標とする。以下の諸点を主な課題として研究を進めた。

（1）各代表地点の音韻体系を詳細に分析し、音節構成要素の韻母、声母、声調を項目ごとにまとめた「同音字表」を提示する。

（2）各代表地点の基礎語彙を集めて漢字と IPA（国際音声記号）により記録し、地点間の比較が可能な語彙集を作成する。

（3）各代表地点の重要な文法項目について調査を行い、文法項目のデータベースを構築する。

３．研究の方法

本研究は①調査内容・代表地点の策定、②フィールド調査、③データ分析、④研究成果の発表という四つの段階に踏まえて実施する。各段階の研究方法は次の通りである。

段階①では、代表地点の選定、調査票の作成、方言話者の確保などを主な内容として取り組む。代表地点は先行研究に基づき、西部 5 地点（白倉鎮、金称市鎮、塘田市鎮、黄亭市鎮、蔡橋郷）、東部 3 地点（塘渡口鎮、諸葛亭鎮、五峰舗鎮）、北部１地点（岩口舗鎮）に絞る（図１参照）。2014 年度では西部の 5 地点（△記号）、2015 年度では東部の 3 地点（●記号）を調査する。北部の１地点（▲記号）は両年度にわたって調査を行う。

図１　調査地点

段階②では、邵陽県方言の音韻、基礎語彙、文法を記述言語的に調査する。語彙調査の調査票は『漢語方言詞彙調査手冊』（Richard VanNess Simmons、顧黔、石汝傑著、中華書局）を基に作成する。調査語彙は天文地理、方向場所、時間季節、農事農具、住居器具、植物農産物、動物、親族呼称、身体部位など 16 項目､1200 余りの語彙数からなっている。文法項目の調査票は『漢語方言及方言調査』（詹伯慧編、湖北教育出版社）465～470 頁所収の例文に基づいて作成したものを使う。これらの例文は漢語方言調査で最も広範に使用されている。ほかに、先行文献を参考した上で、一部の例文を自作する。

段階③では、現地調査で得られた音声資料を文字化し、邵陽県方言の音声・語彙・文法のデータベースを構築する。

段階④では、各代表地点の「同音字表」、基礎語彙集を作成する。これらに基づいて邵陽県方言の下位分類を行う。最後に成果を国内外の学術会議で発表する。

４．研究成果

2014 年度は主に中国湖南省邵陽県における方言調査、データの整理と分析、学会発表、論文執筆である。

（1）邵陽県岩口舗鎮でフィールドワークを実施した結果、これまで学界で知られざる存在であった「邵陽県平話」が発見された。

　この方言については次の 3 点を明らかにした。

① 現地の住民がこの方言を「平話」と呼ぶ。邵陽県境内における「平話」の報告が初めてである。
② 現在「邵陽県平話」を自由に操れる話者が主に 70 歳以上の高年者のみであり、消滅の危機が極めて高い方言である。
③ 「邵陽県平話」の多くの音韻特徴は 50 km以上離れた東安県花橋郷の湘南土話にも同様に観察されており、両者のつながりが非常に濃厚だと考えられる。「邵陽県平話」に関する研究成果は国際学術会議（第７回土話平話および第３回危機方言国際学術会議、中国湖南省湘潭市）と国内学会（日本中国語学会関東支部第５回例会）で発表し、学術雑誌に投稿した。

(2) 中国湖南省邵陽県西部の 5 地点（白倉鎮、金称市鎮、塘田市鎮、黄亭市鎮、蔡橋郷）に赴き、音韻、語彙、文法に関するフィールド調査を実施した。このうち、蔡橋郷は 2007 年に調査したことがあるため、補足調査であり、山歌を新たに 10 首蒐集することができた。その他の 4 地点は調査票調査を通していずれも 3000 個あまりの単字音、1200 あまりの語彙、100 以上の文を録音の形で採集した。
(3) (2) のデータに対する整理と分析の作業を行い、データ集の作成を進めている。
(4) 理論的研究については、湘語方言のアスペクトに対する研究をさらに深め、論文を執筆した。

2015 年度の研究内容は主に以下の 4 点である。
(1) 前年度の邵陽県西部の方言調査に引き続き、今年度は東部の塘渡口鎮、諸葛亭鎮、五峰舗鎮に赴き、西部の調査と同じ調査票を用いて音韻、語彙、文法に関するフィールド調査を行った。
(2) 邵陽県北部の岩口舗鎮の一部の村落では二種類の方言が話されている。一つは周辺地域のことばに近い湘語方言であるが、もう一つは地元の人同士でしか通じない方言であり、「平話」ともよばれる。前年度では後者について初歩的な調査・研究を行ったが、今年度では前者の音韻、語彙、文法について詳細なフィールド調査を行った。
(3) (1) と (2) のフィールド調査で得られた音声データを整理、分析した。東部各地のデータ集と西部のデータ集を合わせて将来刊行する予定である。
(4) 論文の執筆に取り組んだ。また、中国湖南省長沙市で開催された第 3 回湘語国際学術シンポジウムなどに参加し、地元の専門家と研究者に向けて研究成果を積極的に発信した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）
① 王振宇 「邵陽県平話の音韻的特徴」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 39 号、査読なし、2015 年 1 月、PP.91-112
② 王振宇 「消滅の危機に瀕する邵陽県平話の初歩的研究」、『ポリグロシア言語と言語教育』Vol.27、査読なし、2015 年 3 月、PP.117-125
③ 王振宇 「湘語蔡橋方言における共通語「上」、「下」に相当する表現」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 40 号、査読なし、2015 年 7 月、PP.39-54
④ 王振宇 「邵陽県方言調査筆記」、『中央学院大学人間・自然論叢』第 41 号、査読なし、2016 年 1 月、PP.39-54

〔学会発表〕（計 5 件）
① 王振宇 第７回土話平話および第３回危機方言国際学術会議にて口頭発表、「消滅の危機に瀕する邵陽県「平話」」、2014 年 10 月、於中国湖南省湘潭市
② 王振宇 日本中国語学会関東支部第 5 回例会にて口頭発表、「湖南省邵陽県北部における「平話方言島」」、2015 年 3 月、於東京外国語大学
③ 王振宇 中国全国漢語方言学会第 18 回年会および国際シンポジウムにて口頭発表、「湖南方言における「到（倒）」類アスペクトマーカーについて」、2015 年 8 月、於中国甘粛省蘭州市
④ 王振宇 23rd annual conference of the International Association of Chinese Linguistics(IACL)にてポスター発表、「湖南方言における完成相と完了相の類型と文法化」、2015 年 8 月、於漢陽大学（韓国）
⑤ 王振宇 第3回湘語国際学術シンポジウムにて口頭発表、「邵陽県蔡橋方言のアスペクト助詞の体系」、2015 年 10 月、於中国湖南大学（湖南省長沙市）

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
王　振宇（WANG ZHENYU）
中央学院大学・商学部・講師
研究者番号：70532191

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：